

V シラス、カタクチイワシ、カツオ およびピンナガの研究座談会

共 催 日本海洋学会
水産海洋研究会

後 援 東海大学

日 時 昭和40年10月13日9時30分~17時30分

静岡県水産試験場

場 所 東海大学海洋学部

I) 遠州灘・駿河湾を中心とするシラス、カタクチイワシ成魚の漁況変動について

コンピーナー 中井 甚二郎

話題および話題提供者

魚群構造からの漁況予想

林 繁一(東海区水産研究所)

産卵の変動と漁況

服部 茂昌(東海区水産研究所)

1 種個体群構造からのカタクチイワシ漁況予想

林 繁一 (東海区水産研究所)

1) は し が き

カタクチイワシは漁獲量の地理的分布が安定している種である。しかし静岡県沿岸を含むいくつかの地域の漁獲量は特定の数年毎にかなり顕著な増減を示している(林1961)。このような事情の下では、漁況予想がとくに重要な役割をはたすのであるが、残念ながら静岡県周辺に來遊するカタクチイワシの研究はこの目的にたいして不十分である(東海水研1964a, b, 1965a-c)。ここでは現在用いられている漁況予想の方法とその問題点を紹介する。

2) 漁況予想の現状

予想の対象となつている静岡県のカタクチイワシ資源は駿河湾のまき網でとられる未成魚と成魚、および遠州灘周辺の船びき網でとられる後期仔魚(シラス)である。これは駿河湾が静岡県のカタクチイワシ総漁獲物(シラスを除く)の75~80%を生産し、遠州灘がわが国最大のシラス漁場であることから当然の対象設定といえよう。

二つの資源のうち後期仔魚(シラス)については1964年12月までに4通りの予測方法が考えられている(東海水研1965a)。オ1は卵分布量、親魚漁獲量といたつた加入量指数に基づく方法である。遠州灘周辺で漁獲される後期仔魚(シラス)は主として房総半島から紀伊半島に至る水域に現われる卵に由来し、しかもその卵はこの水域で漁獲される成魚によつて産みだされる(林1961)。この因果関係から卵分布量や親魚漁獲量の年変動がシラス來遊量のそれと正の相関を示すのである(服部1965)。しかしたとえは孵化直後の死亡率が高いといつた問題のために(中井他1955、中井・服部1962)、卵存在量と後期仔魚存在